
仮面ライダーディケイド ー新たなる旅ー

エレキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド ―新たな旅―

【Nコード】

N1550M

【作者名】

エレキ

【あらすじ】

ネガの世界を旅してコンプリートフォームの力を手に入れた仮面ライダーディケイドこと門矢士、光夏海や小野寺ユウスケ達とディケイドの新たななる冒険が再び始まる！次に廻る世界には、今までライダーと似ているようで違うライダー達が存在し、裏には新たななる悪の組織の影がうごめく！果してディケイドは、全てのライダーを救い、全てのライダーを破壊する事は出来るのか！

ディケイドが、リ・イマジネーションでもなくオリジナルの世界でもない新たなストーリーとなった平成ライダーの世界を廻る物語で

す。初小説でディケイドに挑戦してしまいました。未熟な文章とストーリーですが、続けられるよう頑張りたいです。

プロローグ（前書き）

前回は失礼しました。使い方が分からなかった物でテストに使わせていただきました。気にしないで頂けると嬉しいです。

プロローグです。何書いてるか分からないかも知れませんが、どうか甘い目で見えていただけると嬉しいです。

プロローグ

「んー、いい天気だなー。なっ士！」

「いい天気なのはいいが、此処も俺の世界じゃないな」

カメラ除きながら話す青年、門矢士こと仮面ライダーディケイドとまるで子供のように背伸びをしながら呆けている青年、仮面ライダークウガに変身する小野寺ユウスケ

「ここは一体どんな世界なんでしょうかね？」

「まっ、とりあえず探してみようよ夏海ちゃん、この世界のライダーを」

ユウスケに夏海と呼ばれた女は光夏海、士やユウスケと共に世界を旅する仲間である。

ディケイド御一行は、ネガの世界を旅し、新たなる世界に到着したところである。

「写真でも撮ってればその内ライダーでも怪人でも勝手に出て来るだろ」

士はライダーを探すのが面倒らしく、写真撮りのついでに探すぐらいのやる気である。

「ホントですか？士君、適当な事言わないで下さ「きゃああああー」
、、、い
「

「言ったる適当にやってれば怪人は出てくるってな。さて、行くぞ！ユウスケ！」

「おう！士！」

「「変身！！」」

プロローグ（後書き）

こんな感じでダラダラと文章続けていく感じですか。読みにくいかも
知れませんがその辺は大目に見て宜しくお願いします。 以
上エレキでした！

キバ編 第1話 ハイテンションキバ（前書き）

最初はキバを書くことにしました。ちなみにキャラ設定は原作やデイケイドとは、全く違う設定にしてみました。今回のキバはハイテンションキャラです。

キバ編 第1話 ハイテンションキバ

「「変身!!」」

《カメンライド! デイクライド!!》

二人の掛け声と電子音の数秒後には夏海の目の前に見慣れた2人の戦士が立っていた。マゼンタの戦士は仮面ライダーデイクライド、ライダーカードを操り数々の敵と戦ってきた戦士である。赤の装甲に包まれた金の角を持つ戦士は仮面ライダークウガ、超変身というフォームチェンジで多彩な姿で戦う戦士だ。

ユウスケ達が走っていく先にはまるでステンドグラスのような色合いをした異形の怪物が存在していた。

「あの怪物は、、、ファンガイアじゃないか! ファンガイアがいるって事は、、、ここはキバの世界なのか? でもキバの世界は前にも行ったような、」

「とにかく今は目の前に集中しろ! ユウスケ!」

「おう! 土! いつくぞおお」

《アタックライド! ブラスト!》

「超変身!! うおりゃあ!」

デイクライドはカードを装填し、華麗な銃撃をファンガイアに放ち、クウガは高らかに叫ぶと水が流れるような音と共に青いクウガ、ドラゴンフォームへと変身し、近くにあった棒を拾い長く青い武器ドラゴンロッドへと変形させ、相手に叩き込んだ。

「ファンガイアにはこれだ!」

《カメンライド! キバ!! フォームライド! キバ! ガルル!!》
デイクライドは二枚のカードを装填し、青い剣ガルルセイバーを持った戦士デイクライドキバガルルフォーム(以下DキバGF)に変身した。

「ハアツ！トリヤー！フツ、こんなもんか？ファンガイア共」

「超変身！！ハアツ！」

DキバGFの素早い斬撃と紫のクウガ、タイタンフォームへと変身したクウガによって勝負は付いたような物だった。あの攻撃を喰らうまでは。

「シャアー！！」

「あん？ウワツ何だこの糸！」

「離れないっ、クソツ！」

ファンガイアの口から放たれた白い糸はデイケイドとクウガの体を包みDキバGFはデイケイドにタイタンフォームはマイティフォームに戻ってしまう。

「クソツ！カードが抜けねえ！グツ」

「どうなつてんだコレ、超変し、グハッ」

戦い方を変えようとしたが、ファンガイアの爪に切り裂かれてしまい、思うように戦えないデイケイドとクウガ。

「どうすんだっ！士！」

「知るかつ！俺に聞くなっ」

「じゃあどうすんだよつて、、、あれは？」

「ふう、やつと出て来たか、この世界の仮面ライダー、、、キバ！」

デイケイド達の先にいたのはスーツの青年と黄金のコウモリ、キバットバット三世。

「いくぜ！キバットオ！」

「おう！航！ガブツ！」

「変身ッ！」

手に噛み付いたコウモリを出現したベルトに付ければ変身完了、赤の体と黄色い目、体の至る所に鎖を巻きつけた戦士は仮面ライダーキバ、フェッスルと呼ばれる笛を使用して戦う仮面ライダーである。「よっしやー！いくぜえええー」

某戦いの神の様な叫びを上げてファンガイアに向かって行くキバ。

「シャー！！！！」

「バツシャーマグナム!!」「うりゃー!」

ファンガイアが放った糸を水の銃バツシャーマグナムで打ち落としたりした。そのままファンガイアに向けて銃弾を放つ。

「よし!トドメだ!」

「バツシャーバイト!!」

マグナムをキバットに噛ませた瞬間、周りが夜になりファンガイア達の足元が水溜まりのようなアクアフィールドに変わった。

「うおりゃああああ」

キババツシャーフォームの必殺技「バツシャーアクアトルネード」を受けたファンガイアはガラスが割れるように砕け散って消え去った。

「よっしゃー!やったな、キバット!」

「おう!航!とここで、、、あいつ等は誰だ?」

「さあ?聞いてみるか?おい、お前ら!名前は?」

航はユウスケ達に質問をする。

「俺は小野寺ユウスケ、仮面ライダークウガです。」

ユウスケは変身をといて言う。

「仮面ライダー?なんだそりゃ?ま、いいか。お前は?」

「俺は門矢士、仮面ライダーディケイドだ。そっちの女はナツミカんだ」

「ナツミカン?面白い名前だな!」

「そうだろ!いい名前だろ!ハハハハハハ、、、グハッ」

「笑いのツボ!」

「ハッハハハハ、ナツミカン!ハハハそれはハハッハ止めろってハハハ行つてんだろ!ハハハ」

夏海の笑いのツボをくらった士は地面に倒れこみ笑っている。

「おい!こいつ大丈夫なのか!?」

「大丈夫です。あ、私の名前は光夏海です。ナツミカンなんて名前じゃないですよ。」

「そ、そうか。俺は赤井航、こいつはキバットバット三世だ。よろ

しくな。」

「こちらこそよろしくな！」

「よろしく願います。」

「ハハハ、、まあよろしくしてやる。ハハハハハハハハハ、、」

「おい！ホントに大丈夫なのかこいつ！」

士はその後1時間ほど笑っていたと言う。

キバ編 第1話 ハイテンションキバ（後書き）

キバ編1話でした。赤井航は、赤井は紅と似た感じにして航は渡の字違いです。

次回は、共闘編を書きたいと思います。

キバ編 第2話 VS ルーク1

― 光寫眞館 ―

「じゃあ航は、ライフエナジーを吸う為に人間を襲う、ファンガイアを統率する組織を倒すために戦っているんだな？」

「ああ、ユウスケはファンガイアについてよく知ってるな。」
ユウスケと航は気が合うのか名前呼び合っている。

「その組織というのはどう言うものなんですか？」

夏海が聞いた。

「チエックメイト4、最強のファンガイアである4体だ。クイーンを初めとする、ルーク、ビジョップで構成されている。」

「チエックメイト4？3体しかないじゃないか。キングかナイトはいないのか？」

士は面倒くさそうだが、一応聞く。

「ルークは最初からいない、キングは、、、、、、」

航はなぜか言っのを躊躇っている。

「キングは実は、、、、、、」

「実は何だ？」

「キングの正体は、お「きゃああああ」」

航の声は女性の叫びで掻き消される。

「ちっ、またファンガイアか。話は後だ！行くぞ、ユウスケ、赤井！」

「おう！」

「お、おう、、」

「ナツミカン！留守番してる！」

「えっ私も行きますっ、、て行っちゃいました、、」

夏海を置いて士達は戦場へ向かう。

「きゃああああ」「うわあああ」

公園では人々の悲鳴が鳴り響いている。

「ハッハッハ！人間共！我はチエックメイト4のルークなり、頭が
高いぞ！ハッハッハ！」

「止める！ファンガイア！」

ファンガイア、ルークに対峙した1人の青年、気は弱そうだが体は
しっかりしている。

「あ、暴れるファンガイアはこの、比護康祐がゆ、許さないぞお！
！」

《レ・デイ・イ》

「へっ、変身！！！！」

《フィ・ス・ト・オ・ン》

機械音と共に腰のベルトから現れた金色のエLEMENTが比護康祐の
体を包んだ。

「イクサの力、みつ見せてやるぞ！やあ！！！」

白と黄色の仮面ライダーイクサは軽快にファンガイアに迫って行き、
パンチやキックを連続して叩き込む。

「よし！勝てる！！！」

《イ・ク・サ・ナツ・ク・ル ラ・イ・ズ・アツ・プ》

「うおりやあー！！！」

ベルトにフェッスルを挿入しナツクルにエネルギーを溜め発動する
イクサの必殺技「プロウクンファング」は確実にファンガイアにヒ
ットしていた。少なくともイクサはそう信じていた。

「フッ、フフフフ」

「な、何！？」

「ハッハッハッハッハ！！おろかな人間よ！その様な技が我に効く

分けなかるうが！フンツ！！」

「グハア！！バカな、、、」

ファンガイアはイクサのパンチは軽々と受け止めていたのだ。反撃を受けイクサは、跳ばされてしまう。

「フツ、ハツハツハツハツハツハ！」

「来るな！来るな来るな来るなあ！来ないでえ！誰か助けてえ！！」
イクサは怖くなり叫びだす。自分の必殺技が全く効かなかったのであるのだからしょうがないだろう。

《アタックライド！ ブラスト！！》

「グワアアアアア！！」

「うわああ、、、つて、ええ！」

イクサは目の前で何が起こったのかわからなかった。気が付いたらファンガイアが眼の前で倒れていたのだ。

「全く、、、どこの誰だか知らないが、俺の出番作りすぎだぞ、、」

「自信たつぷりだな、士。」

「おい康祐！！大丈夫か？」

「航さん、、、そちらの方は一体」

イクサはまだ状況がわかってない。目の前にいる3人の戦士、1人は知っている、赤井航と一緒に戦ってくれた仲間だから、だが後の2人は知らない。ピンク色の戦士と赤い戦士、どちらも見たことがない。

「話は後だ。とりあえず行くぞ！！」

「康祐！まだいけるよな？」

「よし！みんな行くぞ！！」

「は、はい！！」

「4対1とは、卑怯な！行け！！」

ファンガイアが叫ぶと、別のファンガイアが草陰から出てきた。

「ユウスケ！そっちは任せるぞ！！」

「康祐！お前もだ！！」

「任せる！士！！」

「はい！頑張ります！！！」

ディケイド、キバがルークを、クウが、イクサが別のファンガイアを倒すことになった。

「門矢！気を付ける！あれはチェックメイト4の一人のルーク、ライオンファンガイアだ！！！」

「大体わかった、とりあえず潰す！！！」

「ホントに分かってんのかよ？ま、いいか。」

一方、クウガとイクサはというと、、、、

「嘘だろ、、、、」

「いえ、現実です。」

「飛ぶのかよ！あのファンガイア！！！」

「しかもなんか撃つてきますよ！！！」

「ぎゃあああ」

「うわあああ」

「止めるおおお」

「たすけてえええ」

飛ぶファンガイアに苦戦していた。ディケイド達は、、、、

「うおりやああ！！！！！」

「ハアツ！！！」

キックや斬撃で徐々にルークを追いやる。

「さてと、おい赤井！ちょっとこいつ任せろぞ！！！」

「いいけどどこ行くんだ！！！」

「クワガタ渡してくる。」

「はあ？何行つてんだお前？」

「少し待ってるよユウスケ！！！」

意味不快な事をいいディケイドはクウガ、イクサの元へ行く。クウガとイクサは、、、、

「来るなア！！！」

「あつちいけえ！！！」

相変わらず空を飛ぶ敵に戸惑っていた。そして逃げ惑う空中から2

キバ編 第2話 VSルーク1（後書き）

疲れました。次回に続けます。

キバ編第3話 VSルーク決着

「さてと、これがあれば空ぐらい飛べるだろ？頑張れよ。じゃあな。」

「えっちよつと、、、行っちゃった、、、コレどうするんだろ？」

イクサはクウガが変形した巨大なクワガタ、「クウガゴウラム」の出現に戸惑っている。

「触れるのかなあ？そおつと、ウワつ、と、飛んだ!？」

急に空中へ飛び出したクウガゴウラムをみてイクサはいっそう戸惑う。

「とつとにかく、ガンバレー！ユウスケさん！よしっ捕まえたぞ！」

ファンガイアと戦闘を行うゴウラムをみてイクサは子どものようにはしゃぎだす。そしてゴウラムはファンガイアを捕獲し、地面にたたきつけ、元の姿に戻った。

「イテテテテ」

「凄いですね！今のは何ですか？」

「結構辛いなあ、コレ」

ユウスケは体を抑えながら言う。

「へえそうなんですか。まあ今はファンガイアを何とかしましょう。あつまた飛びましたよ！」

「おう！今ならあまり高くは飛べないだろつ。比護さんその銃みたいの貸してもらえますか？」

「あつハイ。でもどうするんですか？」

「ちよつとね、超変身!!！」

クウガは、イクサカリバーを受け取ると、緑の体のペガサスフォームに変わった。

「俺がアレを落としますっ！落ちてきたところをトドメさして下さい。行きますよ！ハアアア」

「よし、コレだ！」

《イ・ク・サ・ナ・ツ・ク・ル ラ・イ・ズ・ア・ツ・プ》

クウガは意識を集中し、イクサはフェッスルをベルトに装填する。

「うおりゃあー!!!」

「グワアアアツツ」

初めにクウガがペガサスフォームの必殺技「ブラストペガサス」で、ファンガイアを打ち抜く。

「落ちてきた！いくぞっ！ウオリヤアア」

そして落ちてきたファンガイアをイクサがナツクルのパンチ「プロウクンフアング」で止めを刺す。

「グギヤアアアアアアアアアアアアアア」

二人の必殺技を受けたファンガイアはガラスのように砕け散る。

「やったあ！やりましたねユウスケさん。」

「ああ、士達を助けに行こう！」

イクサとクウガはルークと戦っているキバとディケイドを助けに行かために走り出した。ディケイド達はというと、、、

「ハアハア、、、バカな、人間ごときにこの私が此処までええ」

「ヘッ！たいしたことねえな！」

ルークを相手に順調に戦いを進めていた。

「士！航！大丈夫か？」

「どうですか？そちらのほうは？」

「フツ完璧だ。」

「楽勝だったぜ！」

「馬鹿な、、、二人も増えたただとお。」

四人のライダーが揃いルークはすでに絶望を感じていた。その頃その近くの丘でコートを着た中年の男と白い雪男のような仮面ライダーがその戦いを見ていた。

「奴らですか？鳴滝様。」

「ああ、この世界でもかなり上位の力を持つ君なら奴等を倒せると思ったんだ。直に別の世界から派遣のライダーも来ることだろう。」

それまで頼むよレイ君？」

「分かりました。あのファンガイアも倒してよろしいんですか？」

「ああ、邪魔者はすべて消せ。」

「分かりました。ハアツ！！」

雪男のような仮面ライダー、レイは丘を飛び降りディケイド達の元へ向かった。ディケイド達は、、、

「さて、そろそろ終わらせるか。行くぞ！」

《ファイナルアタックライド！ ディディディディケイド！》

「ああ、いづくぞおおお」

「終わらせるぞキバット！」

「ウエイクアップ！！！」

「いくぞー」

《イ・ク・サ・カ・リ・バ・ - ラ・イ・ズ・ア・ツ・プ》

「くくくうおりやああああ」

四人が一気に必殺技を放ち勝負はもはや決まった。、、、と思った。四人とファンガイアの間割って入った白い影によりその攻撃は止められた。

「てめえ！何者だ！」

「俺はレイ、仮面ライダーレイだ。」

「レイ？何しに来た？」

「話は後だ、このファンガイアが邪魔だな。」

レイは呟くと懐からフェッスルを取り出しベルトに装着されているコウモリに噛ませる。

「ウエイクアップ」

コウモリがそう言うのと腕の鎖が解きはなたれ巨大な青い爪が現れた。そして、

「ハアツ！」

「グワアアアアア」

爪に切り裂かれてルークは消滅した。

「スゲエエエ、あんたスゲエな！！」

「さてと、お前の目的は何だ？」

「フン、教えてやる。俺の目的は、こうだ！！」
そう言うとレイは青い爪を振り回した。

「お、おい！何だ！！」

「俺の目的は、てめえらを倒す！！！」

「そう言う事が、面白い、相手になってやる。
こうして乱入者VSディケイドの戦いが始まった。」

キバ編第3話 VS ルーク決着 (後書き)

どうも、エレキです。ルーク戦決着と新しいバトルをはじめてみました。次回からバトルが激化します。それではごらんいただきありがとうございます。

キバ編 第4話 助っ人泥棒

《アタックライド！ スラッシュュ！！》

「ハアッ！！ な、何！グハッ！」

レイの突然の襲撃にも関わらずディケイドはカードを取り出し戦っているが、レイは士の予想を越えて強かった。レイはディケイドの攻撃を軽々と防ぎ、巨大な爪で反撃した。

「フッ、その程度か？ディケイド。」

「士！大丈夫か！？お前、何故こんな事を！超変身！！」

クウガはレイに対し怒りを示すと力の強い紫のクウガタイタンフォームに変身した。

「うおりゃー！」

「下らん、、、そんな物で俺に勝てると思うな！！」

「な、何だと！全然効いてないだと！？グアアアア！！」

レイはクウガの攻撃をまたもや爪で抑えると反撃を返した。

「弱い、弱すぎる、、、」

「大丈夫ですか皆さん！？クソー。」

「門矢！ユウスケ！てめええウオリヤー！！！！」

「弱いつて言ってるだろ！！ハアッ！！！！！！」

イクサとキバの同時攻撃もレイは軽々と返す。

「此処まで弱いとは、まあいい。ディケイド、貴様から消してやる、
、、」

レイは爪をディケイドのに向けて止めを差そうとする。

「終りだ、、、」

「士ー！！」

「門矢ー！！」

ユウスケと航は叫びだす。

《アタックライド！ プラスト！！》

「グワアアアアア！！！！」

その時どこからか青い光弾放たれレイは地面に沈んだ。

「情けないな、土、、、」

「海東か、、、一応礼を言う。」

現れた青い戦士は仮面ライダーディエンド、ディケイドと同じ世界を旅する仮面ライダーだ。

「あのライダーは何だ？」

「あの仮面ライダーレイは鳴滝が連れてきたライダーだ。」

「なるほど、、、大体分かった、、、で、お前は何しに来た？海東」

「僕かい？僕はお宝を戴きに來ただけさ。レイの鎧はかなりレア物さ。土、行くよ。」

「ああ、付き合ってやる。ユウスケ達は見てろ。ハアツ！」

ディケイドとディエンドはレイに走っていく。

「1人増えたところで変わらん。相手してやる。」

《カメンライド！ ライオトルーパーズ！！》

ディエンドライダーから発射された三色の光が合体しファイズの世界の兵隊ライダー、ライオトルーパーが召還された。

「雪男には熊だ！！！」

《フォームライド！ デンオー！ アックス！！》

ディケイドはパワー重視の仮面ライダー電王アックスフォームへ、変身した。

「さあ、此処から勝負だ！」

「その鎧は戴くよ。」

「フン、無駄だ。ハアツ！！！」

ライオトルーパーの攻撃を軽々とかわし、まず1体を倒した。だがレイは後ろから撃ってきたディエンドの攻撃を防ぎ切れず、さらにD電王AFの斬撃を受けてしまう。

「つくう、卑怯な手をおおお」

「4人がかりは卑怯か、、、海東！少し減らせ。」

「僕に指図するな、まあしょうがないか。」

《ファイナルアタックライド！　デイ・デイ・デイ・デイ・デイエンド！》

デイエンドは黄色いカードを装填し現れたカードの渦の中にライオトルーパーたちを吸収し、それをレイに向けた。

「これでいいかな？　レイ君？」

「ま、待て、それとこれとは話がちがう」

「もう遅いよ、ハアツ！！」

「グハアアア！！」

デイエンドは必殺技「デイメンションシュート」を放った。それをもろに喰らったレイは大きく飛ばされる。

「決まったね。」

「くそお、デイエンドめえ！」

「海東！　俺が決める。」

《ファイナルアタックライド　デイ・デイ・デイ・デイ・デイケイド》

「はあああ、トリヤアアアアア！！！！」

「うわああああああああ！！！！」

デイケイドは必殺技「デイメンションキック」でレイを蹴り付けた。

「ま、こんなところか。」

「ハア、ハア、ハア、、、、」

「おい、お前！　鳴滝はどこにいる？」

「だ、、、れが言うか、、、おのれデイケイドオオオ！！　グワアア

鳴滝様ああああ！！！！」

そう叫ぶとレイは爆発し、その場に倒れた。

（鳴滝、、様？　あいつ偉いのか？　ま、いいか。）

「さてと、このコウモリは戴くよ。フフン」

海東はレイキバットを手に入れて上機嫌だ。そこにクウガとキバ、イクサが駆けつけた。

「やったな、士！　海東！！」

「でもあいつは何だったんだ？」

キバ編 第4話 助っ人泥棒（後書き）

どうでしたか？レイ戦はキバにあまり関係ないので1話だけにしました。最後はネタになってしまいました。次はビジョップ戦だと思います。

以上エレキでした！

キバ編 第5話 キバの決断（前書き）

今回から書き方を変えてみました。読みやすくなっていると思います。

キバ編 第5話 キバの決断

―光寫眞館―

士

「戻ってきたし、聞けなかったことを聞くぞ、赤井、キングは誰だ？（まあ、予想はつくけどな、）」

鳴滝の件を解決し、寫眞館に戻った士達は航に聞けなかったことを改めて聞き直すが、士は大体予想がついているようだ。ちなみに比護は、仕事があるといって帰り、海東はいつのまにか消えていた。

ユウスケ

「そうだよ、航。キングは一体誰なんだ？」

夏海

「気になります、教えてくださいよ。」

航

「えっと、、、それは、、、」

士

（こいつ等空気読めねえな）

航が言いたくなさそうなのを無視してユウスケ達が急かすのを見て士は、呆れていた。

士

「まあ良い、少しその辺を探索しながらチェックメイト4の事を
つと教えてもらおう。」

士はユウスケ達のせいでキングの事が聞き辛くなったので話を切り
替える。が、

ユウスケ

「ええー何でだよー士ーせっかく聞けると思ったのにー」

夏海

「そうですよ士君、酷いです。」

士

(こいつ等ホントに空気読めねえな、イライラしてくる)

ユウスケ達の空気の全く読めない言葉に苛立っていた。

士

「とりあえず行くぞっ！な、赤井。」

航

「あ、ああ。そうだな。(ありがとな、)、(」

航はそう言つとユウスケ達から見えない位置で士にVサインを出し、
小声でお礼を告げた

ー近くの公園ー

ユウスケ

「あーあ、良い話が聞けるかと思ったのに、士のせいで台無しだよ。ねえ夏海ちゃん？」

夏海

「そうですね、何考えてるんですかね？士君は。」

ユウスケと夏海はまだ文句を言っている。その後ろで士と航は二人で話している。

士

「何考えてるはこっちのセリフだ、ナツミカンめ。」

航

「なあ、門矢。お前は俺の事分かってるんだろ？」

航は士が自分の正体を知っていると分かっていたのでそれを士に聞いた。

士

「ああ、大体分かってる。言っただいいのか？」

航

「ああ、言ってくれよ。」

士

「ならば言っぞ、キングはお前だろ？」

士は厳しさの中にも優しさの籠った声で航に言った。

航

「流石門矢だな、、、そう、キングは、俺なんだ。」

士

「やはりな、お前はそれを誰にも言っていないのか？」

士はその答えに驚きもせずまた質問をする。

航

「ああ、誰にも言っていない。いや、誰にも言えないんだ、、、」

士

「恐れられるのが怖いからか？」

航

「そうだ、だがこれだけは信じてくれ！俺は人は襲う奴は許さない。その為にファンガイアと戦っているんだ！俺は絶対に人を襲ったりしない！」

航は取り乱して言う。熱さの籠った声にも士は的確に優しく返す。

士

「そんな事は分かっている。お前はチェックメイト4をどうするつもりなんだ？」

航

「俺はクイーンを倒すまで戦う。そして俺はファンガイアから人を守りつつける。」

士

「そうか、良く分かった。俺も手伝ってやろう。」

航

「ありがとう門矢、俺を信じてくれて。一緒に戦おう！」

士

「ああ。勿論だ。」

二人が腕を組むと、売店にジュースを買いに行っていたユウスケと夏海が戻っていた。

ユウスケ

「何話してたんだ？士。」

士

「お前には関係ない。」

ユウスケ

「何だよー士のケチ。」

夏海

（士君と航さん、笑ってる。良かったです。）

楽しそうに笑う士と航、ふて腐れているユウスケ、その光景をみて夏海も嬉しそうに笑う。すると、どこからか声が聞こえる。

???

「フフフフフ、楽しそうですね皆さん。」

士

「誰だあの男？」

士達の目の先には、眼鏡をかけた若い男が立っていた。その体からは誰よりも強いオーラが発されていた。

航

「門矢、あいつは、ビジョップだ！」

士

「そうか、ユウスケ！夏海を連れて離れている！こいつは幹部だ。」

「

ユウスケ

「お、おう。二人で大丈夫なのか？」

ユウスケは心配そうに聞く。

士

「心配には及ばん。十分だ。」

ユウスケ

「そうか。よし！行くぞ、夏海ちゃん！」

夏海

「ハ、ハイ！！」

士が言うとユウスケは夏海と走り出した。

士

「さてと、お前の用事は何だ？」

ユウスケ達が見えなくなると士はビジョップに聞く。

ビジョップ

「私は取り戻しに着ただけですよ。我らがキングをね。」

航

「そう易々と戻る気はないな！俺はお前らをぶっ潰す！！」

ビジョップ

「それは無理です。貴方にはキングとしてファンガイアを治める運命なのです。」

ビジョップが言つと士が割り込んできた。

士

「こいつには意志がある。それをお前が覆すわけには行かないな。こいつはキバとしてお前らと戦いつづける決断をしたんだ。」

ビジョップ

「決断など意味ありません。キングの運命は変えられないのです。」

士

「お前が言うことが運命ならこいつは、、、運命の鎖を解き放つ！！そして自分で道を切り開いていくんだ！！だろ、赤井！」

航

「ああ、俺は鎖を解き放ち、お前らを倒してる！！キバットオー！！」

キバツト

「よっしゃー！！行くぜ、航！ガブツ！！」

航はキバツトを呼び出し、士はバックルを取り付ける。

ビジョップ

「貴様、何者だ？」

士

「俺か？通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ！！行くぞ！」

航

「おう！！」

士・航

「「変身！！」」

《カメンライド！ デイクライド！！》

デイクライド

「さあ、行くぜ！」

キバ

「ああ、ぶっ潰してやる！！」

デイクライドの手には新たな力を得たカードが握られていた。

キバ編 第5話 キバの決断（後書き）

キバ編はそろそろ終わります。ビジョップ戦で完結すると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1550m/>

仮面ライダーディケイド ー新たなる旅ー

2010年10月20日15時04分発行